
血液透析患者に対する HIF-PH 阻害薬の臨床効果: roxadustat (Rox)、daprodustat (Dap)、enarodustat (Ena) の比較

医療法人衆和会 長崎腎病院

○佐藤修一 赤峰太一 林田征俊 澤瀬健次 河津多代 山口貢正 戸村秀志 橋口純一郎 原田孝司 船越哲

【目的】

当院で epoetin-k からそれぞれ Rox、Dap、Ena の 3 製剤に変更し、臨床効果を検討した。

【対象・方法】

ESA 高容量投与患者で同意が得られたで T-SAT \geq 20% の症例に対し、それぞれ Rox、Dap、Ena (n=35,20,43) に切り替えた。内服開始から 4 週間は用量を一定とし、以降は Hb 値 10.0~12.0g/dl を目標に調整を行い、貧血改善効果と鉄動態を 16 週間観察した。

【結果】

薬剤変更後の急激な Hb 値低下にて脱落した症例は、Dap の 1 例のみであり、他疾患などで脱落した症例を除き、16 週までに Rox:22 Dap:14 Ena:28 名の患者に内服を継続した。Dap と Ena は 4 週目まで Hb 値は低下する傾向にあったが、内服量の増量により Hb 値は漸増した。Rox では内服開始後すぐに上昇が認められた。16 週後には 3 製剤とも Hb 値 10.0~12.0g/dl で維持が可能であった。

【考察】

今回使用した HIF-PH 阻害薬 3 製剤では、ほぼ同等の貧血改善効果が得られ、Rox において早期の Hb 値上昇が認められた。HIF-PH 阻害薬は鉄代謝とともに Hb 値を上昇させ、ESA 反応性を改善させる可能性が示唆された。